

歯のつめもの かぶせもの

に使われる素材

歯は一度削ってしまうと、元に戻ることはありません。そのため、歯を修復するために「つめもの」や「かぶせもの」を作る必要があります。実はこれらにはいろいろな素材があり、成分などで細かく分類すると何十種類以上にも！そこで、代表的な素材の種類と特徴を解説したいと思います。

プラスチック

加工がしやすく、安価で製作できます。しかし、プラスチックのお皿で想像できるように、着色しやすかったり、傷や摩耗に弱く、雑菌を引き寄せるといった弱点があります。



お皿でおなじみの「陶材」を歯科用に強化したものです。お皿の表面がピカピカしているのと同様、白くて美しい色と透明感があります。プラスチックと比べると、その質感の差は小さく、「自然の歯よりも美しい」と感じる方もいるほどです。ただし、強い衝撃に弱く、製作費がかかるという面もあります。

セラミック



ゴールド

見た目は白くないので前歯には使えませんが、柔軟性があり、精度高く、自分の歯にぴったりと装着できます。自然の歯と同じくらいの硬さなので、周りの歯を痛めるリスクも最小限。しかも、金属アレルギーになりにくいという特徴もあります。ただし金ですので材料費が高くなります。



セラミックは強い衝撃に弱いため、それを補うために金属をベースにしてその上にセラミックを焼き付けるという方法があります。しかしこれでは内側の金属が黒く影になってしまい、美しさが半減。そこで近年、金属の代わりに使われているのが、真っ白でとても硬いジルコニアです。ジルコニアをそのまま使うこともできますが、透明感が全くないため表面にセラミックを焼き付けるのが一般的です。また、材料・製作に費用がかかります。

ジルコニア



これら以外にも、保険診療で使われる「金銀パラジウム合金」(いわゆる銀歯)、セラミックとプラスチックを混ぜた「ハイブリッド」、ゴールドとプラチナでできた「白金合金」など様々なものがあります。それぞれ特徴をもった素材ですので、つめものやかぶせものを製作する際はじっくり考えて決めましょう！ご不明な点はいつでもご相談ください。

こんなになに抜けちゃうの!?

年齢別 歯の抜ける本数

歯は一生使えるものではありません。調査によればその平均寿命はおよそ60年。日本人の平均寿命が約80歳以上ですから、多くの方が亡くなるまでに何本かの歯を失うことになり、ではどの年齢でどのくらいの本数を失っていくのでしょうか？

40代で初体験

そんな人達も40代になると「歯を失う」という初めての経験をし、平均で1.5本失います。そして50代ではさらに2.5本程度の歯を失う。つまりここまででおおよそ4本の歯を失っています。

60代から加速する

さらにしつかりケアをしていかないと、ますます歯を失うことに。そのスピードは早まり、60代では約3本、70代ではなんと5.5本以上失います。さて、ここまでの合計は何本でしょう？



どうすれば守れる?

歯を失う一番の原因は歯周病。次にむし歯です。その他にも噛み合わせ、ケガなどでも歯が抜けてしまいます。ケガはやむを得ないとしても、歯周病、むし歯、噛み合わせなどは確実に予防ができます。歯科での定期検診やケアの指導などにより、多くの方が80歳以上でも20本以上の歯を残しています。一生健康で美味しい食生活を送るためにも、悪くなった時だけでなく、ぜひ定期的に歯科でチェックを受けましょう！

右の絵と左の絵に違うところが10個あるよ!

間違い探し 「虹と雨」

